

小木の子 われら

校 区 内
全 戸 回 覧

令和6年10月3日発行

「佐渡学」の答えが出る時

校長 高橋 高志

みなさんは、「佐渡学」という言葉をご存じですか？

佐渡市では、10年以上前から小中学校の総合的な学習の時間を「佐渡学」と名付け、金山やトキについての学習、各校区の特色を生かした郷土学習に取り組んできました。

佐渡学のねらいは、**ふるさと佐渡について自ら課題を設定し、調べ、体験する学習**を通して、佐渡を愛する人づくりをすることです。言い換えると、将来、子どもたちが**大人になった時、「佐渡で暮らしたい・佐渡を盛り上げたい・島外にいても佐渡を応援したい」という思いをもってほしい**という願いがあります。

当時、小木小学校では、市内各校に先駆けて3～6年生の佐渡学の計画が整えられました。以来、多くの先生方や地域の皆様のご尽力により、「重伝建」や「沢崎の海苔作り」など少しずつ新しい内容が加えられ、現在に至っています。

先日の学校運営協議会では、委員の方から「私たちの世代が子どもの頃は、佐渡学のような学習はなく、都会指向でふるさとへの関心が高くなかったが、自分の子どもは、佐渡が大好きで、佐渡に帰ってきてくれた。小中学校での学習（佐渡学）のおかげだと思う」というお声をいただきました。また、当校の卒業生である動画クリエイターのけえ【島育ち】さんのように、島の外から佐渡を力強く応援してくれる先輩もいます。このようなお声や卒業生の姿から、「これまでの佐渡学の取組は間違っていなかったのだ」と、自信と勇気が出てきました。そして、改めて**教育というのは答えが出るまでに時間がかかるもの**ということも実感しました。

10月19日の文化祭・学習発表会では、小木に伝わる民話や小木の町並み（重伝建）など「佐渡学」の成果を発表する学年があります。**小木っ子が未来の佐渡や小木を担い、支える人になってくれることを信じながら、子どもたちと共に当日に向けて頑張っていきたい**と思います。

保護者の皆様、地域の皆様のご来校を心よりお待ちしております。